

◇-----◇  
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2011. 11. 7

下水道機構の『新技術情報』 第20号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇  
初めての海外旅行はバンコクでした。当時某旅行社の「タイは若いうちに行け！」というキャッチコピーに惹かれて選んだのがバンコクでした。賑やかでエネルギッシュな街は若者には刺激的でパワーを沢山もらいました。そんなバンコクが今、未曾有の洪水に見舞われています。微笑みの国が涙に濡れています。一刻も早く洪水が収まりタイの人々に笑顔がもどる日を願ってやみません。

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第20号をお届けします。  
業務に、Tea Breakにご活用ください。

■□■□トピックス□■□■

★インフォメーション

- ・新技術現場研修会「東京都下水道局清瀬水再生センター 汚泥ガス化炉施設」を開催！
- ・10月15日(土)～19日(木) WEFTEC2011(米国ロサンゼルス)参加報告【第2弾】

★機構の動き

- ・今週は、第298回技術サロン(11月10日(木)17:00～18:00@機構8F会議室)が開催されます！

講師：国土交通省 水管理・国土保全局下水道事業課 町村下水道対策官 植松龍二氏、  
テーマ：「下水道事業予算について（社会資本整備交付金及び地域戦略交付金）」

★Tea Break

- ・新しい趣味（研究第一部 ヨシナリさんからの投稿です）

★みなさまからのコラム

- ・掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

★国からの情報

- ・11月4日付け下水道ホットインフォメーションです

.....  
インフォメーション (最新の話です)  
.....

●新技術現場研修会「東京都下水道局清瀬水再生センター 汚泥ガス化炉施設」を開催！

一般社団法人日本ガス協会と共催して、11月29日(火)14:00~16:30(西武池袋線清瀬駅北口ロータリー13:30集合、貸切バスで移動)に東京都下水道局 清瀬水再生センター汚泥ガス化炉施設で新技術現場研修会を開催します。

本汚泥ガス化炉施設は、日本初の実用化施設(昨年7月運用を開始)であり、下水汚泥を蒸し焼きにし、生成した可燃性ガスを汚泥の乾燥とガス化に必要な熱源として利用し、さらに残りの可燃性ガスを発電に利用するもので、従来の焼却炉に比べ大幅な温室効果ガスの削減を図ることのできるものです。当施設は、このたび、第4回(平成23年度)国土交通大臣賞<循環のみち下水道賞>を受賞しました。

出捐・賛助企業及び公共団体の下水道技術者の方を対象に募集しています。皆様方、多数のご参加をお待ちしております※ご参加は、下水道機構のホームページから直接お申し込みいただくことが可能です。プログラムもご覧頂けますので是非、以下のURLをご覧ください。

[http://www.jiwet.jp/school/school-01\\_058.htm](http://www.jiwet.jp/school/school-01_058.htm)

●10月15日(土)~19日(木) WEFTEC2011(米国ロサンゼルス)参加報告!【第2弾】

当機構から4名が参加し、下水汚泥からのリン資源化技術開発、下水道設備の診断技術開発、下水道管路の技術開発、浸水対策の技術開発について口頭発表(2人)、ポスター発表(2人)を行いました。その結果報告について前号から4回に渡って、参加した4名の方の参加報告をお届けしています。

第2弾は、資源循環研究部の南総括主任研究員からの報告です。

=====  
前回の報告に続きまして今回は資源循環研究部の南が報告します。

私は、「Nutrient Recovery」というワークショップで「Phosphorus recovery - Japanese experience」という演題で15分の口頭発表を行いました。下水灰からのリン資源回収について下水道機構で取り組んでいる事およびこれから取り組むべき事についてのビジョンを報告しました。その他、アメリカ、カナダ、ドイツからの発表者で全員で10人からそれぞれの取り組みについて話題提供がありました。特にドイツからの発表は、私の発表内容と似ている部分がありました。ヨーロッパもリン資源が不足しており、輸入に依存しています。リン資源として、下水汚泥に着目して技術開発しているところが全く日本と同じです。今後、ヨーロッパが技術開発の競合相手になることは必須だと思いますが、国際的な共同研究も有意義だと思います。参加者からも国際的な共同体制が必要だろうという意見もいただきました。

我々のワークショップは、1ヶ月前には既にチケットが売り切れ、前日の学会新聞にも注目のセッションとして紹介文が掲載されていました。当日も会場はほぼ満席（100人以上）で、下水からの資源回収についての関心の高さがよくわかりました。そのような状況で、私の英語がどこまで通用したのか心配だったのですが、後日チェアマンから送られてきたワークショップ参加者の評価表のコメント欄に日本人とドイツ人の発表が良くレビューされていて「good」という記述があって安心しました。夕方には、会場の参加者を4つのグループに分けてのグループディスカッションが行われました。私たちワークショップの発表者は、好きなグループでオブザーバー参加ということでした。

国際会議のフリーディスカッションで人の意見を聞き、自由に自分の意見を述べることができる「実践ビジネス英語」の取得が私の今後の課題として残りました。

ロサンゼルスへの感想ですが、坂道が多く歩道に大きな段差があり、しかも歩行者用の青信号の時間が日本に比べてかなり短い！うかうかしていると横断歩道を渡りることができないのです。アメリカは、全土でバリアフリーが行き届いていると思っていたが全然逆だった。確かに高齢者、車椅子利用者はあまり見かけなかった。きちんと住み分けられているのかな？意外な面の発見もあった今回のアメリカ出張でした。

---

機構の動き （機構の行事予定です）

---

◎11月10日(木)17:00～18:00

第298回技術サロン（場所：機構会議室、講師：国土交通省 水管理・国土保全局下水道事業課 町村下水道対策官 植松龍二氏、テーマ：「下水道事業予算について（社会資本整備交付金及び地域戦略交付金）」）

参加申し込みはこちら→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-298.htm>

●11月15日(火) 13時00分～17時00分

第2回水処理新技術実用化評価委員会（場所：福岡市東部水処理センター）

主な議題 現地調査及びNADHシステムなど3件の審議

●11月17日(水) 13時30分～16時45分

第2回汚泥処理新技術実用化評価委員会（場所：機構8F特別会議室）

主な議題 汚泥ガス化炉施設の性能評価など2件の審議

●第55回新技術セミナー

11月18日(金) 13:00～16:45 東京会場@発明会館

11月25日(金) 13:00～16:45 大阪会場@大阪科学技術センター

参加申し込みはこちら→ [http://www.jiwet.jp/school/school-02\\_055.htm](http://www.jiwet.jp/school/school-02_055.htm)

●11月21日(月) 13時30分～17時30分

第2回 管路技術共同研究委員会(場所：G&U技術研究センター（埼玉県比企郡川島町））

主な議題 現地実験及び衝撃弾性波など2件の審議

●11月22日(火) 14時00分～16時00分

第2回 水処理技術共同研究委員会(場所:機構8F 特別会議室)

主な議題 平膜を用いた膜分離活性汚泥法、1件の審議

●11月22日(火) 14時00分～16時00分

第2回 新技術設計手法等共同研究委員会

主な議題 リスク管理監視システム、1件の審議

★11月25日(金) 13:30～

防食シートライニング工法協会「第7回技術講習会」(場所:TKP 東京駅ビジネスセンター)

29H) 当研究第一部の森田部長が出席し、「震災と下水道(仮称)」について講演します。

---

Tea Break (機構職員の感じるまま)

---

●新しい趣味(研究第一部 ヨシナリさんからの投稿です)

今年になってから新しく2つ趣味を持ち始めました。それは、ゴルフとスキューバダイビングです。ゴルフはずっとやりたいとおもっていたのですが、今回思い切ってチャレンジしました。

初めてのゴルフ場は、小学生のとき初めてスキー場にいったときの気分に思え、すこぶる爽快でした。ボーリングであったならば敵なしと思えるスコアで、周りの方には大変ご迷惑おかけしましたが、また、ゴルフ場に行きたいと思います。もう一つ、海の中はこれまた素敵な世界でして、今までに体験したことがない神秘の空間に感じました。私もいろいろと趣味はもっていましたが、社会人になってからしばらく趣味を広げていませんでした。ですが、ゴルフもスキューバーも未経験のときの想像とは大違いで、経験してはじめて感じるものがたくさんありました。

趣味を広げるのはとても刺激的と率直に感じたので、これからも趣味を広げていきたいなあと思っています。

次はいよいよスカイダイビングか(^0^)

---

みなさまのコラム(皆様からお寄せいただいた情報です)

---

●掲載情報募集中!

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

※原則400字以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としていますが、掲載の可否は当機構にて判断させていただきます。

---

下水道ホットインフォメーション（2011.11.4 付、国からの最新情報です）

送信元：国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課企画専門官 石井宏幸

---

今年の循環のみち下水道賞<国土交通大臣賞>を受賞した、東日本大震災で流失した釜石市水管橋の仮復旧。このたび発刊された「日本水道鋼管協会」の季刊誌で大きく取り上げられています。この迅速な仮復旧は、鋼管メーカーや道路管理者などの迅速な対応によるところが大きいですが、「日本水道鋼管協会」のご尽力も素晴らしいものでした。東北地整の下水道現地支援本部からの要請を受けて、当方より同協会事務局長さんに協力依頼をしたところ即日ご対応下さり、迅速な復旧につながったものです。

今週は横浜市、下水道機構、メタウォーターから情報を頂いております。

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

○下水道工事の安全対策の徹底について【下水道事業課】

●133の企業・団体と連携し「横浜水ビジネス協議会」がスタート！【横浜市】

●新技術セミナー「下水汚泥のエネルギー化技術について」東京と大阪で開催！【下水道機構】

●産経新聞に連載【メタウォーター】

=====

○下水道工事の安全対策の徹底について【下水道事業課】

残念ながら下水道工事に関する死亡事故が立て続けに発生しています（2月1件、6月～8月各1件、10月2件）。このため、10月31日付で地方公共団体あて企画専門官事務連絡「下水道工事の安全対策の徹底について」を発出しました。これから年末・年度末にかけて死亡事故をはじめ事故が増加するので、あらためて安全教育の実施、施工管理体制・施行計画等の確認及び安全点検の実施を十分に行うなど、一層の安全対策の徹底をお願いします。

●133の企業・団体と連携し「横浜水ビジネス協議会」がスタート！【横浜市】

横浜市と、市内企業等が持つ、上下水道に関する技術や運営ノウハウを、市内企業等の海外水ビジネス展開の支援に活かすため、環境技術のプロモーション、企業間ネットワーク構築支援、海外需要の調査・情報提供などの場として、「横浜水ビジネス協議会」を設立します。「横浜水ビジネス協議会」は、本市の進めるY-PORT事業の

一環として設立し、市内企業等のビジネスチャンス拡大を通じて、市内経済の活性化等を目指します。日時等は下記のとおりです。

日時：平成23年11月10日（木）14時00分～14時40分

場所：ロイヤルホールヨコハマ2F ヴェルサイユ（横浜市中区山下町90）

（みなとみらい線日本大通り駅（県庁・大さん橋駅）情文センター口・出口3より徒歩2分）

出席者：横浜市長 林文子

会員：133会員

内容：市長あいさつ、設立趣旨ならびに活動内容等の説明、横浜水ビジネス協議会要綱の制定、その他

●新技術セミナー「下水汚泥のエネルギー化技術について」東京と大阪で開催！【下水道機構】

下水道機構では、11月18日（金）（東京会場；発明会館）と25日（金）（大阪会場；大阪科学技術センター）の13:00～16:45に下水道新技術セミナーを開催します。今回のテーマは「下水汚泥のエネルギー化技術」。長期的な電力不足等が見込まれる中地球温暖化対策や創・省エネルギーに大きく貢献することが期待されている技術です。

当セミナーでは、国土交通省の官民連携による下水道資源有効利用促進制度検討委員会委員長等をなされている京都大学大学院 津野洋教授をお招きして、「下水汚泥のエネルギー化技術の現状と展望」と題して基調講演いただくとともに、国土交通省下水道部の白崎亮調整官からは「下水汚泥エネルギー化技術ガイドライン(案)」について特別講演いただきます。また、神戸市建設局下水道河川部の瀧村課長、鹿島建設(株)環境本部の菅野課長を講師にお迎えし、消化ガス有効利用、下水処理場における家庭系生ごみの受け入れの取り組みについて、それぞれご講演いただきます。さらに、機構からは下水処理場へのバイオマス受け入れマニュアル等の取り組みをご紹介しますなど、エネルギー化技術に関して総合的に知見を深められるセミナーとなっておりますので、皆様方、多数のご参加をお待ちしております。なお、本セミナーは土木学会のCPDプログラムに登録しておりますので、継続教育にもお役立てください。※ご参加は、下水道機構のホームページから直接お申し込みいただくことが可能です。プログラムもご覧頂けますので是非、以下のURLをご覧ください。

[http://www.jiwet.jp/school/school-02\\_055.htm](http://www.jiwet.jp/school/school-02_055.htm)

●産経新聞に連載【メタウォーター】

当社が取材を受け、産経新聞家庭欄コラム「知ってる?!」に連載されました。

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/111003/trd11100307230002-n1.htm>

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/111010/trd11101007570005-n1.htm>

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/111017/trd11101707570003-n1.htm>

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/111024/trd11102407250005-n1.htm>

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/111031/trd11103107330002-n1.htm>

=====

【参考情報】

◆福島第1原発事故 汚泥焼却灰保管、東電費用補償へ 関東甲信自治体に < 10/28 毎日新聞 >

<http://mainichi.jp/select/weathernews/news/20111028dde041040079000c.html>

◆「水質汚濁防止法施行規則等の一部を改正する省令」公布 <10/28 EIC ネット >

<http://www.eic.or.jp/news/?act=view&serial=26033&oversea=0>

◆バンコク冠水、日本人が住む地区に迫る 大潮で水位上昇 <10/28 朝日新聞 >

<http://www.asahi.com/international/update/1028/TKY201110280480.html>

◆汚泥処理で改善勧告 土かぶせ不足、君津の最終処分場にー県 /千葉 < 10/29 毎日新聞 >

<http://mainichi.jp/area/chiba/news/20111029ddlk12040138000c.html>

◆もし昔の生活に戻ったら（5）役割は増す下水道 <10/31 MSN 産経ニュース >

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/111031/trd11103107330002-n1.htm>

◆放射性物質検出の汚泥焼却灰、埋め立て計画凍結から1カ月半/横浜 <10/31 神奈川新聞 >

<http://news.kanaloco.jp/localnews/article/1110310009/>

◆ごみ、下水汚泥滞留 放射能不安 仮置きのまま 福島県 <11/1 河北新報 >

<http://www.kahoku.co.jp/news/2011/11/20111101t61016.htm>

◆汚泥焼却灰問題 県と33市町村、国に対策を要望 /神奈川 <11/2 毎日新聞 >

◆下水道事業の手引 平成23年版 好評発売中

[http://www.suido-gesuido.co.jp/blog/info/2011/06/post\\_34.html](http://www.suido-gesuido.co.jp/blog/info/2011/06/post_34.html)

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方は

こちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせは

こちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

